

## 基本計画書

基本計画									
事項	記入欄						備考		
計画の区分	研究科の専攻の設置								
フリガナ設置者	コクリツダイガクホウジン エヒメダイガク 国立大学法人 愛媛大学								
フリガナ大学の名称	エヒメダイガクダイガクイン 愛媛大学大学院 Graduate School of Ehime University								
大学本部の位置	愛媛県松山市道後樋又10番13号								
大学の目的	愛媛大学は、学術の一中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させ、もって文化の創造と発展に貢献することを目的とする。								
新設学部等の目的	高度な実践的指導力を持った初等中等教育教員を養成することを目的とする。教育現場におけるリーダーシップを発揮できる学校管理職人材の育成、及び、教育現場における現代的諸課題に適切に対応できる実践的指導力を備えた教員の養成を行う。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	一部14条特例の実施 教職大学院
	計	年	人	年次人	人	教職修士（専門職）	年 月 第 年次 平成28年4月 第1年次	愛媛県松山市文京町3番	
	計	2	15	0	30				
同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）	<p>教育学研究科</p> <p>学校教育専攻（廃止）（△5）※平成28年4月学生募集停止 教科教育専攻[定員減]（△10）（平成28年4月）</p> <p>農学研究科</p> <p>生物資源学専攻（廃止）（△72）※平成28年4月学生募集停止 食料生産学専攻[新設]（26）（平成27年4月届出予定） 生命機能学専攻[新設]（23）（平成27年4月届出予定） 生物環境学専攻[新設]（23）（平成27年4月届出予定）</p> <p>法文学部</p> <p>総合政策学科（昼間主コース）（廃止）（△270）※平成28年4月学生募集停止 （3年次編入学定員）（廃止）（△10）※平成28年4月学生募集停止 総合政策学科（夜間主コース）（廃止）（△60）※平成28年4月学生募集停止 （3年次編入学定員）（廃止）（△20）※平成28年4月学生募集停止 人文学科（昼間主コース）（廃止）（△125）※平成28年4月学生募集停止 人文学科（夜間主コース）（廃止）（△50）※平成28年4月学生募集停止 （3年次編入学定員）（廃止）（△20）※平成28年4月学生募集停止 人文社会学科（昼間主コース）[新設]（275）（平成27年4月届出予定） （3年次編入学定員）[新設]（10）（平成27年4月届出予定） 人文社会学科（夜間主コース）[新設]（90）（平成27年4月届出予定） （3年次編入学定員）[新設]（20）（平成27年4月届出予定）</p> <p>教育学部</p> <p>総合人間形成課程（廃止）（△60）※平成28年4月学生募集停止 スポーツ健康科学課程（廃止）（△20）※平成28年4月学生募集停止 芸術文化課程（廃止）（△20）※平成28年4月学生募集停止 学校教育教員養成課程[定員増]（40）（平成28年4月）</p> <p>社会共創学部</p> <p>産業マネジメント学科 [新設]（70）（平成27年3月設置申請） 産業イノベーション学科[新設]（25）（平成27年3月設置申請） 環境デザイン学科 [新設]（35）（平成27年3月設置申請） 地域資源マネジメント学科[新設]（50）（平成27年3月設置申請）</p>								

		農学部 生物資源学科(廃止) (△170) ※平成28年4月学生募集停止 (3年次編入学定員)(廃止)(△10) ※平成28年4月学生募集停止 食料生産学科[新設] (70) (平成27年4月届出予定) (3年次編入学定員)[新設] (5) (平成27年4月届出予定) 生命機能学科[新設] (45) (平成27年4月届出予定) (3年次編入学定員)[新設] (2) (平成27年4月届出予定) 生物環境学科[新設] (55) (平成27年4月届出予定) (3年次編入学定員)[新設] (3) (平成27年4月届出予定)						
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数		
		講義	演習	実験・実習	計			
	教育学研究科 教育実践高度化専攻 (教職大学院)	—	31科目	6科目	37科目	46単位		
教員	学部等の名称	専任教員等						兼任 教員等
		教授	准教授	講師	助教	計	助手	
新設	教育学研究科 教育実践高度化専攻 (教職大学院)	10人 (10)	2人 (2)	0人 (0)	0人 (0)	12人 (12)	0人 (0)	6人 (6)
	計	10人 (10)	2人 (2)	0人 (0)	0人 (0)	12人 (12)	0人 (0)	—人 (—)
既設	教育学研究科 教科教育専攻	30 (33)	27 (28)	8 (8)	0 (0)	65 (69)	0 (0)	3 (3)
	” 特別支援教育専攻	4 (4)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	6 (6)
組	” 学校臨床心理専攻	3 (3)	6 (6)	1 (1)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	10 (10)
	法文学研究科 総合法政策専攻	25 (25)	25 (25)	0 (0)	0 (0)	50 (50)	0 (0)	0 (0)
織	” 人文科学専攻	23 (23)	22 (22)	0 (0)	0 (0)	45 (45)	0 (0)	0 (0)
	理工学研究科 (博士前期課程) 生産環境工学専攻	18 (18)	17 (17)	1 (1)	6 (6)	42 (42)	0 (0)	13 (13)
の	” 物質生命工学専攻	13 (13)	15 (15)	0 (0)	5 (5)	33 (33)	0 (0)	7 (7)
	” 電子情報工学専攻	15 (15)	15 (15)	3 (3)	3 (3)	36 (36)	0 (0)	15 (15)
設	” 数理物質科学専攻	21 (22)	21 (21)	0 (0)	10 (10)	52 (53)	0 (0)	8 (8)
	” 環境機能科学専攻	17 (17)	15 (15)	0 (0)	5 (5)	37 (37)	0 (0)	10 (10)
概	理工学研究科 (博士後期課程) 生産環境工学専攻	18 (18)	18 (18)	0 (0)	0 (0)	36 (36)	0 (0)	0 (0)
	” 物質生命工学専攻	13 (13)	12 (12)	0 (0)	0 (0)	25 (25)	0 (0)	0 (0)
の	” 電子情報工学専攻	14 (14)	15 (15)	0 (0)	0 (0)	29 (29)	0 (0)	0 (0)
	” 数理物質科学専攻	20 (21)	15 (15)	0 (0)	0 (0)	35 (36)	0 (0)	0 (0)
要	” 環境機能科学専攻	17 (17)	13 (13)	0 (0)	0 (0)	30 (30)	0 (0)	0 (0)
	医学系研究科 (博士課程) 医学専攻	38 (38)	51 (51)	48 (48)	16 (16)	153 (153)	0 (0)	7 (7)
分	” (修士課程) 看護学専攻	11 (11)	5 (5)	1 (1)	0 (0)	17 (17)	0 (0)	0 (0)
	農学研究科 (修士課程) 生物資源学専攻	40 (40)	36 (36)	0 (0)	19 (19)	95 (95)	0 (0)	47 (47)
要	連合農学研究科 (博士後期課程) 生物資源生産学専攻	40 (40)	30 (30)	1 (1)	3 (3)	74 (74)	0 (0)	0 (0)
	” 生物資源利用学専攻	35 (35)	24 (24)	2 (2)	7 (7)	68 (68)	0 (0)	0 (0)
分	” 生物環境保全学専攻	24 (24)	21 (21)	0 (0)	0 (0)	45 (45)	0 (0)	0 (0)
	計	439 (444)	406 (407)	65 (65)	74 (74)	984 (990)	0 (0)	— (—)
合計		449 (454)	408 (409)	65 (65)	74 (74)	996 (1002)	0 (0)	— (—)

教員以外の職員の概要	職 種		専 任	兼 任	計		大学全体			
	事 務 職 員		301 (301) 人	440 (440) 人	741 (741) 人					
	技 術 職 員		514 (514)	162 (162)	676 (676)					
	図 書 館 専 門 職 員		19 (19)	0 (0)	19 (19)					
	そ の 他 の 職 員		5 (5)	420 (420)	425 (425)					
計		839 (839)	1,022 (1,022)	1,861 (1,861)						
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
	校 舎 敷 地	387,277 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	387,277 m <sup>2</sup>					
	運 動 場 用 地	79,745 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	79,745 m <sup>2</sup>					
	小 計	467,022 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	467,022 m <sup>2</sup>					
	そ の 他	4,187,394 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	4,187,394 m <sup>2</sup>					
合 計		4,654,416 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	4,654,416 m <sup>2</sup>					
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
		218,480 m <sup>2</sup> ( 218,480 m <sup>2</sup> )	0 m <sup>2</sup> ( 0 m <sup>2</sup> )	0 m <sup>2</sup> ( 0 m <sup>2</sup> )	218,480 m <sup>2</sup> ( 218,480 m <sup>2</sup> )					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設		大学全体			
	107室	93室	627室	17室 (補助職員0人)	5室 (補助職員0人)					
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称			室 数					
		教育学研究科			100 室					
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	大学全体		
	教育学研究科	1,221,225 [381,002] (1,221,225 [381,002])	28,440 [12,809] (28,440 [12,809])	6,760 [6,160] (6,760 [6,160])	6,351 (6,351)	10,384 (10,384)	1 ( 1 )			
	計	1,221,225 [381,002] (1,221,225 [381,002])	28,440 [12,809] (28,440 [12,809])	6,760 [6,160] (6,760 [6,160])	6,351 (6,351)	10,384 (10,384)	1 ( 1 )			
図 書 館		面積		閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数		大学全体		
		10,615 m <sup>2</sup>		979 席		785,000冊				
体 育 館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体		
		10,388 m <sup>2</sup>		武道場1, 弓道場1, テニスコート19面, 水泳プール4基						
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経 費 の 見 積 り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	国費による
		教員1人当り研究費等		—	—	—	—	—	—	
		共同研究費等		—	—	—	—	—	—	
		図書購入費	—	—	—	—	—	—	—	
	設備購入費	—	—	—	—	—	—	—	—	
学生1人当り 納付金		第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
		— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円			
学生納付金以外の維持方法の概要			—							

大学等の名称	愛媛大学 (Ehime University)							
	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
	年	人	年次人	人		倍		
既設大学等の状況	法文学部					1.05		愛媛県松山市 文京町3番
	総合政策学科 (昼間主コース)	4	270	3年次10	1,100	1.05	平8	
	総合政策学科 (夜間主コース)	4	60	3年次20	280	1.06	平8	
	人文学科 (昼間主コース)	4	125	-	500	1.08	平8	
	人文学科 (夜間主コース)	4	50	3年次20	240	1.04	平8	
	教育学部					1.06		愛媛県松山市 文京町3番
	学校教育教員養成課程	4	100	-	400	1.09	平11	
	特別支援教育教員養成課程	4	20	-	80	1.02	平20	
	総合人間形成課程	4	60	-	240	1.02	平20	
	スポーツ健康科学課程	4	20	-	80	1.10	平20	
	芸術文化課程	4	20	-	80	1.05	平11	
	理学部					1.04		愛媛県松山市 文京町2番5号
	数学科	4	50	-	200	1.10	平17	
	物理学科	4	50	-	200	1.04	平17	
	化学科	4	52	-	208	1.03	平17	
	生物学科	4	43	-	172	1.04	平17	
	地球科学科	4	30	-	120	0.96	平17	
	医学部					1.00		愛媛県東温市志津川
	医学科	6	110	2年次5	660	1.00	昭48	
	看護学科	4	60	3年次10	260	1.00	平6	
工学部					1.05		愛媛県松山市 文京町3番	
機械工学科	4	90		360	1.04	平3		
電気電子工学科	4	80		320	1.04	平3		
環境建設工学科	4	90		360	1.05	平8		
機能材料工学科	4	70		280	1.07	平8		
応用化学科	4	90	学科共	360	1.05	平3		
情報工学科	4	80	通	320	1.07	平3		
			3年次10	20				
農学部					1.06		愛媛県松山市樽味 3丁目5番7号	
生物資源学科	4	170	3年次10	700	1.06	昭63		
大学院法文学研究科 (修士課程)					0.70		愛媛県松山市 文京町3番	
総合法政策専攻	2	15	-	30	0.49	平10		
人文科学専攻	2	10	-	20	1.00	平10		
大学院教育学研究科 (修士課程)					0.90		愛媛県松山市 文京町3番	
学校教育専攻	2	5	-	10	0.50	平5		
特別支援教育専攻	2	5	-	10	1.30	平17		
特別支援教育コーディネーター専修	1	6	-	6	0.74	平17		
教科教育専攻	2	30	-	60	0.88	平8		
学校臨床心理専攻	2	9	-	18	1.11	平16		

\*医学部医学科  
入学定員うち5  
人は、平成29年  
度までの措置  
\*医学部医学科  
入学定員うち10  
人は、平成31年  
度までの措置

大学院医学系研究科 (修士課程) 看護学専攻	2	16	-	32	修士(看護学)	0.84		愛媛県東温市志津川
大学院医学系研究科 (博士課程) 医学専攻	4	30	-	120	博士(医学)	1.00	平10	愛媛県東温市志津川
大学院理工学研究科 (博士前期課程)					修士(理学)	1.08		愛媛県松山市 文京町3番
生産環境工学専攻	2	60	-	120	修士(工学)	1.10	平18	
物質生命工学専攻	2	57	-	114		1.23	平18	
電子情報工学専攻	2	57	-	114		1.00	平18	
数理物質科学専攻	2	40	-	80		0.91	平18	
環境機能科学専攻	2	26	-	52		1.14	平18	
大学院理工学研究科 (博士後期課程)					博士(理学)	1.27		愛媛県松山市 文京町3番
博士(工学)								
生産環境工学専攻	3	6	-	18		1.83	平18	
物質生命工学専攻	3	5	-	15		1.06	平18	
電子情報工学専攻	3	4	-	12		0.91	平18	
数理物質科学専攻	3	4	-	12		1.66	平18	
環境機能科学専攻	3	4	-	12		0.66	平18	
大学院農学研究科(修士課程)					修士(農学)	0.67		愛媛県松山市樽味 3丁目5番7号
生物資源学専攻	2	72	-	144		0.67	昭42	
大学院連合農学研究科 (博士課程)					博士(農学)	1.25		愛媛県松山市樽味 3丁目5番7号
博士(学術)								
生物資源生産学専攻	3	9	-	27		1.07	昭60	
生物資源利用学専攻	3	4	-	12		1.91	昭60	
生物環境保全学専攻	3	4	-	12		1.00	昭60	

附属施設 の概要	名称	目的	所在地	設置年月	規模等
	医学部附属病院	医学教育, 研究及び診療	愛媛県東温市志津川	昭和51年5月	建物面積 71,529㎡
	医学部附属総合医学 教育センター	医学教育改革を推進及び 発展		平成17年4月	建物面積 141㎡
	医学部附属手術手技 研修センター	手術手技向上への寄与		平成25年12月	建物面積 775㎡
	医学部附属Aiセン ター	医学・医療の向上及び発 展		平成26年8月	建物面積 285㎡
	教育学部附属教育実 践総合センター	授業実践, 研究及びその 実地指導	愛媛県松山市持田町1 丁目5番22号	平成10年4月	建物面積 1,202㎡
	教育学部附属幼稚園	幼児教育, 研究及び教員 養成		昭和24年5月	建物面積 1,115㎡
	教育学部附属小学校	児童教育, 研究及び教員 養成		昭和24年5月	建物面積 5,424㎡
	教育学部附属中学校	生徒教育, 研究及び教員 養成		昭和24年5月	建物面積 7,004㎡
	教育学部附属特別支 援学校	特別支援教育, 研究及び 教員養成		昭和47年4月	建物面積 3,020㎡
	愛媛大学附属高等学 校	高等普通教育及び専門 教育, 研究, 教育実習	松山市樽味3丁目2番40号	平成20年4月	建物面積 13,999㎡
農学部附属農場	農学の理論を探究しつ つ, 応用技術を総合化す る研究及び学生生徒の実 験実習	松山市八反地甲498番地	昭和29年4月	土地面積 187,813㎡	

農学部附属演習林	森林・林業に関する研究 及び学生生徒の実験実習	松山市大井野町乙145番2	昭和32年9月	土地面積3,838,905㎡
----------	----------------------------	---------------	---------	----------------

# 国立大学法人 愛媛大学 設置申請等に関わる組織の移行表

平成27年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	平成28年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
<b>愛媛大学</b>				<b>愛媛大学</b>				
<b>法文学部</b>				<b>法文学部</b>				
		3年次				3年次		
総合政策学科	330	30	1380	人文社会学科	365	30	1520	学科の設置(届出)
昼間主コース	270	10	1100	昼間主コース	275	10	1120	
夜間主コース	60	20	280	夜間主コース	90	20	400	
		3年次						
人文学科	175	20	740					
昼間主コース	125	-	500					
夜間主コース	50	20	240					
<b>教育学部</b>				<b>教育学部</b>				
学校教育教員養成課程	100	-	400	学校教育教員養成課程	140	-	560	定員変更(40)
特別支援教育教員養成課程	20	-	80	特別支援教育教員養成課程	20	-	80	
総合人間形成課程	60	-	240	総合人間形成課程	0	-	0	平成28年4月学生募集停止
スポーツ健康科学課程	20	-	80	スポーツ健康科学課程	0	-	0	平成28年4月学生募集停止
芸術文化課程	20	-	80	芸術文化課程	0	-	0	平成28年4月学生募集停止
				<b>社会共創学部</b> 学部の設置(設置申請)				
				産業マネジメント学科	70	0	280	
				産業イノベーション学科	25	0	100	
				環境デザイン学科	35	0	140	
				地域資源マネジメント学科	50	0	200	
<b>理学部</b>				<b>理学部</b>				
数学科	50	-	200	数学科	50	-	200	
物理学科	50	-	200	物理学科	50	-	200	
化学科	52	-	208	化学科	52	-	208	
生物学科	43	-	172	生物学科	43	-	172	
地球科学科	30	-	120	地球科学科	30	-	120	
<b>医学部</b>				<b>医学部</b>				
		2年次				2年次		
医学科	110	5	660	医学科	110	5	645	
		3年次				3年次		
看護学科	60	10	260	看護学科	60	10	260	
<b>工学部</b>				<b>工学部</b>				
機械工学科	90	-	360	機械工学科	90	-	360	
電気電子工学科	80	-	320	電気電子工学科	80	-	320	
環境建設工学科	90	-	360	環境建設工学科	90	-	360	
機能材料工学科	70	-	280	機能材料工学科	70	-	280	
応用化学科	90	-	360	応用化学科	90	-	360	
情報工学科	80	-	320	情報工学科	80	-	320	
		3年次				3年次		
各学科共通	-	10	20	各学科共通	-	10	20	
<b>農学部</b>				<b>農学部</b>				
		3年次				3年次		
生物資源学科	170	10	700	食料生産学科	70	5	290	学科の設置(届出)
		3年次		生命機能学科	45	2	184	学科の設置(届出)
				生物環境学科	55	3	226	学科の設置(届出)
計	1,790	2年次5 3年次80	7,540	計	1,770	2年次5 3年次60	7,405	

## 平成27年度

入学  
定員編入学  
定員収容  
定員

専攻	入学 定員	編入学 定員	収容 定員
<b>愛媛大学大学院</b>			
法文学研究科			
総合法政策専攻(M)	15	-	30
人文科学専攻(M)	10	-	20
教育学研究科			
学校教育専攻(M)	5	-	10
特別支援教育専攻(M)	11	-	16
教科教育専攻(M)	30	-	60
学校臨床心理専攻(M)	9	-	18
医学系研究科			
医学専攻(D)	30	-	120
看護学専攻(M)	16	-	32
理工学研究科			
生産環境工学専攻(M)	60	-	120
物質生命工学専攻(M)	57	-	114
電子情報工学専攻(M)	57	-	114
数理物質科学専攻(M)	40	-	80
環境機能科学専攻(M)	26	-	52
生産環境工学専攻(D)	6	-	18
物質生命工学専攻(D)	5	-	15
電子情報工学専攻(D)	4	-	12
数理物質科学専攻(D)	4	-	12
環境機能科学専攻(D)	4	-	12
農学研究科			
生物資源学専攻(M)	72	-	144
連合農学研究科			
生物資源生産学専攻(D)	9	-	27
生物資源利用学専攻(D)	4	-	12
生物環境保全学専攻(D)	4	-	12
計	478	-	1050

## 平成28年度

入学  
定員編入学  
定員収容  
定員

変更の事由

専攻	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
<b>愛媛大学大学院</b>				
法文学研究科				
総合法政策専攻(M)	15	-	30	
人文科学専攻(M)	10	-	20	
教育学研究科				
<u>教育実践高度化専攻(M)</u>	<u>15</u>	-	<u>30</u>	専攻の設置(設置申請)
特別支援教育専攻(M)	11	-	16	
<u>教科教育専攻(M)</u>	<u>20</u>	-	<u>40</u>	定員変更(△10)
学校臨床心理専攻(M)	9	-	18	
医学系研究科				
医学専攻(D)	30	-	120	
看護学専攻(M)	16	-	32	
理工学研究科				
生産環境工学専攻(M)	60	-	120	
物質生命工学専攻(M)	57	-	114	
電子情報工学専攻(M)	57	-	114	
数理物質科学専攻(M)	40	-	80	
環境機能科学専攻(M)	26	-	52	
生産環境工学専攻(D)	6	-	18	
物質生命工学専攻(D)	5	-	15	
電子情報工学専攻(D)	4	-	12	
数理物質科学専攻(D)	4	-	12	
環境機能科学専攻(D)	4	-	12	
農学研究科				
<u>食料生産学専攻(M)</u>	<u>26</u>	-	<u>52</u>	専攻の設置(届出)
<u>生命機能学専攻(M)</u>	<u>23</u>	-	<u>46</u>	専攻の設置(届出)
<u>生物環境学専攻(M)</u>	<u>23</u>	-	<u>46</u>	専攻の設置(届出)
連合農学研究科				
生物資源生産学専攻(D)	9	-	27	
生物資源利用学専攻(D)	4	-	12	
生物環境保全学専攻(D)	4	-	12	
計	478	-	1050	



教育課程等の概要																
(教育学研究科教育実践高度化専攻)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
共通基礎科目	授業研究の開発実践	1前		2				○		2					兼1	チーム・ティーチング
	授業開発の理論と実際	1前		2				○		1						チーム・ティーチング
	心の教育の理論と実践	1後		2				○		2					兼1	集中、チーム・ティーチング
	授業における学習支援と指導法の事例分析	1前		2				○		1						チーム・ティーチング
	子どもの問題行動の事例研究	1前		2				○		1	1				兼1	集中、チーム・ティーチング
	子どもの発達と感情	1前		2				○		1						チーム・ティーチング
	特別支援教育の理論と実践	1前		2				○			1				兼1	集中、チーム・ティーチング
	生徒指導・進路指導の実践研究	1前		2				○		1	1					チーム・ティーチング
	学級経営の理論と実践	1前		2				○		2					兼1	チーム・ティーチング
	学校組織のリーダーシップ	1前		2				○		1						集中
	教員の成長と職業倫理	1前		2				○		3					兼1	チーム・ティーチング
	教師のライフヒストリー省察と資質能力開発	1前		2				○		1						集中
	愛媛の教育改革	1前		2				○		3					兼1	チーム・ティーチング
小計 (13科目)	—		0	26	0			—		9	2	0	0	0	1	
コース別選択科目	リーダーシップ開発コース	1後		2				○							兼1	集中
	教員研修プログラム開発演習	1後		2				○		3						チーム・ティーチング
	信頼を構築する学校危機管理	1後		2				○		3					兼1	チーム・ティーチング
	データを活用した学校経営	1後		2				○		3				チーム・ティーチング		
	カリキュラムマネジメントと校内研修	1後		2				○							兼1	集中
	人材育成演習	1後		2				○		3						チーム・ティーチング
	学校改善課題研究1	1前	2					○		6					兼1	チーム・ティーチング
	学校改善課題研究2	1後	2					○		6						チーム・ティーチング
	学校改善課題研究3	2前・後	4					○		6					兼1	集中、チーム・ティーチング
	小計 (9科目)	—		8	12	0			—		6	0	0	0	0	2
教育実践開発コース	子ども理解の心理アプローチ	1後		2				○		1	2				兼3	チーム・ティーチング
	教材開発演習	1後		2				○		2						チーム・ティーチング
	教育課題解決のための教育プログラム開発演習	1後		2				○		3					兼1	チーム・ティーチング
	学級経営と生徒指導の事例研究	1後		2				○		3				チーム・ティーチング		
	特別な教育的ニーズへの対応	1後		2				○			1				兼1	チーム・ティーチング
	児童生徒・保護者の教育相談実践	1後		2				○			2			チーム・ティーチング		
	授業改善課題研究1	1前	2					○		3	1				兼3	チーム・ティーチング
	授業改善課題研究2	1後	2					○		3	1					チーム・ティーチング
	授業改善課題研究3	2前・後	4					○		3	1				兼3	チーム・ティーチング
小計 (9科目)	—		8	12	0			—		7	2	0	0	0	4	
実習科目	異校種実習	1前		2				○		10	2				兼4	集中、チーム・ティーチング
	小規模校実習	1前		2				○		10	2					集中、チーム・ティーチング
	研究指定校実習	1後		2				○		10	2				兼4	チーム・ティーチング
	地域連携実習1	1前・後	4					○		10	2			チーム・ティーチング		
	地域連携実習2	2前・後	4					○		10	2				兼4	チーム・ティーチング
	地域連携実習3	2後	2					○		10	2			集中、チーム・ティーチング		
小計 (6科目)	—		8	8	0			—		10	2	0	0	0	4	
合計 (37科目)			—	24	58	0		—		10	2	0	0	0	6	
学位又は称号		教職修士（専門職）			学位又は学科の分野			教員養成関係								
修了要件及び履修方法							授業期間等									
【修了要件】 共通基礎科目20単位、コース別選択科目16単位、実習科目10単位、合計46単位以上を満たすことであり、実践研究報告書の作成と発表が最後に課される。							1学年の学期区分			2学期						
							1学期の授業期間			15週						
							1時限の授業時間			90分						

【履修方法】

(1) 共通基礎科目

教職大学院の教育課程の基礎は、共通基礎科目5領域20単位である。「教育課程の編成及び実施に関する領域」「教科等の実践的な指導方法に関する領域」「生徒指導及び教育相談に関する領域」「学級経営及び学校経営に関する領域」「学校教育と教員の在り方に関する領域」である。共通基礎科目として13科目（26単位）を配置し、各領域から2単位以上の習得、合計20単位以上の習得を修了要件とする。

(2) コース別選択科目（発展科目）

リーダーシップ開発コースでは、共通基礎科目の学習を基盤として、選択科目6科目（12単位・選択）、課題研究3科目（8単位・必修）を設定する。また、教育実践開発コースでは、共通基礎科目の学習を基盤として、選択科目6科目（12単位・選択）、課題研究3科目（8単位・必修）を設定する。いずれのコースも、16単位以上の習得が修了要件として課される。

(3) 課題研究（コース別選択科目のうちの必修部分）

リーダーシップ開発コースには、「学校改善課題研究1・2・3」（計8単位）を、教育実践開発コースには「授業改善課題研究1・2・3」（計8単位）を設定する。各課題研究について、「1」は1年次前期に、「2」は1年次後期に、「3」は2年次に行う。院生1名につき、原則、研究者教員1名、実務家教員1名の計2名で担当する。

(4) 実習科目

教職キャリアの多様性を踏まえた実習メニューの中から、10単位以上を履修する。なお、実習には、一定期間に集中して実習を行う「集中型」と、複数の日程にわたって実習を行う「分散型」に区分する。

1年次担当実習科目：異校種実習、小規模校実習、研究指定校実習、地域連携実習1

2年次担当実習科目：地域連携実習2、3

【履修科目の登録の上限】

半期28単位、年間56単位を上限とする。

教育実践高度化専攻

科目区分		コース名	リーダーシップ開発コース	教育実践開発コース
共通基礎科目	教育課程の編成及び実施に関する領域		各領域から2単位、 合計20単位	
	教科等の実践的な指導方法に関する領域			
	生徒指導及び教育相談に関する領域			
	学級経営及び学校経営に関する領域			
コース別選択科目	発展科目		8	8
	課題研究		8	8
実習科目			10	10
合計（単位）			46	46

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学研究科教育実践高度化専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通基礎科目	授業研究の開発実践	<p>本講座は、「研究授業」ではなく「授業研究」の開発実践を創造できる資質・能力の育成を目指している講座である。そのために、戦後の授業研究の系譜を概観し、量的分析と質的分析の代表的な手法を学び、授業の観察システムとしての種類と特性を知る。また、愛媛県教育委員会が推進している参加型授業研究の現状と課題を知る。その上で、フィールド研修として、実際に小中学校に出向き、校内研修会に参加し、その後の職員会議の議論も分析対象とする。そこで明らかになった課題をプレゼンにまとめ発表し、今後の授業研究の方向性を探る。</p> <p>(ティーム・ティーチング方式/全15回) (2 露口健司/15回, 7 平松義樹/15回)</p>	ティーム・ティーチング方式
	授業開発の理論と実際	<p>学習指導要領を踏まえた授業づくりの実践的方法について学ぶ。実際に小・中・高等学校で教育経験のある教員が、各回のテーマに沿って資料を準備し、受講生とともにディスカッションやレポートによる意見交換を通して、授業開発の理論構築や授業展開のための実践力の伸長を図る。授業開発の理論を構築するための重要な視点として、学力観・学習観の検討にはじまり、多様な学習方法の理解があげられる。それらに注目しながら、受講者との授業開発の理論構築に努力する。また、授業展開のための実践力の伸長として、学習指導案の作成・課題設定・板書・ノート指導・ねりあげ・授業の終わり方まとめかた等について受講者と考究し、それらの実践的能力を育成する。</p> <p>(ティーム・ティーチング方式/全15回) (11 高橋葉子/15回, 13 吉村直道/15回)</p>	ティーム・ティーチング方式
	心の教育の理論と実践	<p>規範意識の低下やいじめなどの現代的課題に対応するために、道徳教育を中心とし、特別活動を視野に入れた心の教育の理論とその方法論について検討する。まず、道徳の時間を中心とした心の教育の取組について、事例検討を深め、具体的な授業案の作成を行う。さらに、授業案の検討を通して、教科化を視野に入れた道徳教育のあり方について考察する。また、特別活動を中心とした取組についても同様に検討を行い、心の教育を実践する能力を育成する。</p> <p>(ティーム・ティーチング方式/全15回) (3 太田佳光/15回, 9 小田哲志/15回)</p>	集中 ティーム・ティーチング方式
	授業における学習支援と指導法の事例分析	<p>前半では、特に特定の教科に限定せず、授業における学習支援について一般的に考究していく。まずは、主体的な学習者を育成する学習支援を考究するための基礎理論として、本授業では市川氏の「認知カウンセリング」の理解を図る。その考えのもと、まず授業における3つの学習形態(クラス全体での協議、グループワーク、個別学習)に注目し、そのそれぞれの場面での学習支援について、受講生全員で考究する。</p> <p>後半では、算数・数学、国語、理科に限るが、具体的な教科指導のなかで、子どもたちのつまずきを予想し対応できる実践力の育成に努めていく。その際、実際の事例観察などをもとに、受講者から予想されるつまずきを想像し発表してもらう。</p> <p>(ティーム・ティーチング方式/全15回) (11 高橋葉子/15回, 13 吉村直道/15回)</p>	ティーム・ティーチング方式
	子どもの問題行動の事例研究	<p>時代の変遷とともに家庭環境や地域環境は変化し、児童生徒の問題行動の深刻化が指摘されている。本授業では、事例研究の手法を通して、児童生徒への個別対応の意義を考え、児童生徒の問題行動への理解を深め、個別対応的な実践力の習得を試みる。事例研究の対象とする具体的問題行動は、いじめ、不登校、非行等である。カウンセリングマインドの涵養とともに、生徒指導、進路指導、教育相談等におけるアセスメントや教育指導・援助の方法等に関する知識・技能の習得を目指したい。</p> <p>(ティーム・ティーチング方式/全15回) (6 信原孝司/15回, 9 小田哲志/15回)</p>	集中 ティーム・ティーチング方式

<p>子どもの発達と感情</p>	<p>子どもの情緒発達・社会性の発達心理について生涯発達の視点から学ぶとともに、学校における課題と教育実践・支援について考える。主要なテーマとしては、人生早期からの情緒的レパートリーの拡大、自己意識の感情、愛着、共感性と思いやり（援助）、生命尊重の態度、感動経験、興味の形成と動機づけ、自尊感情、感情表出とその自己制御、レジリエンスなど。 これらの側面に影響する社会的関係（家族、仲間、教師）や、社会的自立、自己概念・アイデンティティの形成などとの関わりをとりあげ、教育・支援を考える。 (単独方式／全15回) (1 橋本巖／15回)</p>	<p>単独方式</p>
<p>特別支援教育の理論と実践</p>	<p>本講義では、特別支援教育の動向、各障害に関する基礎的理解、障害のある人のキャリア発達と社会的自立に向けての支援について講義を行う。学習方法として、理解を深めるためのグループワークを積極的に活用する。また、実践的指導力の育成を視野に入れ、通常の学級に在籍する特別な教育的ニーズのある児童生徒への対応を理解し、具体的な支援方法を含む学習指導案を作成、模擬授業を行い、支援方法を検討する。さらに、特別支援教育における健康教育として、重症児の医療的ケアについて概説し、実技演習により理解を深める。 (単独方式／全15回) (12 樫木暢子／15回)</p>	<p>単独方式</p>
<p>生徒指導・進路指導の実践研究</p>	<p>本講座は、学校経営の重要な柱の一つである生徒指導・進路指導について、学校経営的な観点から考えていこうとする資質や能力の育成を目指すものである。講座では、生徒指導・進路指導の現状から取り組むべき課題を考察し、その改善に向け、関係機関や専門家等との連携を図りながら学校全体で組織的に取り組んでいくための方策について具体的事例を織り交ぜながら検討していくことを中心に構成している。講座のまとめの段階では、ミドルリーダー及び管理職の観点に立った生徒指導・進路指導の充実のための実践課題を明らかにしたい。 (チーム・ティーチング方式／全15回) (6 信原孝司／15回, 8 城戸茂／15回)</p>	<p>集中 チーム・ティーチング方式</p>
<p>学級経営の理論と実践</p>	<p>現代の教育課題への対応などをふまえ、望ましい学級経営のあり方とその方法論について、特別活動や学級づくりの視点から検討する。まず学級経営の理論的背景として、準拠集団論・リーダーシップ論などについての理解を深め、学級経営の基本的な視座を獲得する。その上で、具体的な学級経営の方法について、実践事例を中心とした検討と具体的な学級経営案の作成を行い、望ましい学級経営のあり方についての実践的指導力を育成する。 (チーム・ティーチング方式／全15回) (3 太田佳光／15回, 8 城戸茂／15回)</p>	<p>チーム・ティーチング方式</p>
<p>学校組織のリーダーシップ</p>	<p>スクールリーダーとして必要なリーダーシップの思考と技法について、①目標で動かす、②戦略に巻き込む、③評価データで動かすという3つの視点から、理論的な知識を学ぶとともに、グランドゼイン・校務分掌表・学校評価表等についての自校の実践や実践事例を対象とするケース・スタディを行うことで、人々を動かすための実践知を形成する。さらに、後半では学校評価実務のノウハウについても学び、評価データで人々を動かすための具体的技法を習得する。 (単独方式／全15回) (2 露口健司／15回)</p>	<p>単独方式</p>
<p>教員の成長と職業倫理</p>	<p>本講座は、教員のキャリア発達をライフステージごとに理解し、そこで求められる資質や能力をまとめることと、職業倫理の認識の深化過程を理解することを目的としている。ややもすると管理職登用試験の試験勉強において、初めて教育実践の法的裏付けを知る教員が多い中、それを改善する知見を得ることを目的として考えている。なお、本講座では、教員のライフステージとそこで求められる資質・能力を理解することができる。質的研究法の手法を用いて、実際にインタビューを行い、そこからの知見を抽出することができる。教員のキャリア発達と職業倫理の関連性について考察することができる、の3点を目標として設定している。 (チーム・ティーチング方式／全15回) (4 山崎哲司／15回, 7 平松義樹／7回, 9 小田哲志／10回)</p>	<p>チーム・ティーチング方式</p>

		教師のライフヒストリー省察と資質能力開発	<p>本授業は、発達理論としてのライフサイクル論とナラティブ理論としてのライフヒストリー論の相違点を理解し、教師の資質能力開発の様々な文脈を考察する。そして、ライフヒストリーの手法を用いて、教師の仕事と生活の在り方を分析し、事例研究を行う。また教師の仕事と生活に影響を与える社会の変化を理解し、変化の激しい社会における教師のソーシャルスキルの重要性とソーシャルスキルの適応方法について、ワークショップを交えて実践的に考察する。</p> <p>(単独方式/15回) (5 白松賢/15回)</p>	集中 単独方式
		愛媛の教育改革	<p>本授業の第1ステージでは、愛媛県の教育改革の全体像について、様々な行政資料や教育委員会担当者の講話を通して理解する。大学教員や外部講師の講義が中心となる。第2ステージでは、実地視察を通して、当該教育改革が求められる背景・文脈、並びに教育改革が具現化する過程について探究を行う。教育委員会や学校での実施学習が中心となる。第3ステージでは、愛媛県教育委員会が示す10の基本方針・教育事業より一つを選択し、その改革の具現化実態・進捗状況を踏まえつつ、教育事業の作成・提案を試みる。このステージでは、大学内での演習が中心となる。</p> <p>なお、本授業では、①愛媛県における教育改革の全体像、背景・文脈、具現化実態を理解することができる、②愛媛県の教育課題の克服に有用な教育事業を提案することができる、の2点を到達目標として設定している。</p> <p>(ティーム・ティーチング方式/全15回) (2 露口健司/15回, 7 平松義樹/15回, 8 城戸茂/15回)</p>	ティーム・ ティーチング 方式
コ ー ス 別 選 択 科 目	リ ー ン グ シ ス テ ム	教育政策の立案と評価	<p>本授業では、政策に関する調査・研究を行ううえで必要な考え方やスキルを取り上げるとともに、グループ・ワークでは具体的な調査研究テーマを設定してリサーチを行い、調査結果をまとめる。</p> <p>授業全体では、次の3点を取り上げる。第1に、教育政策立案・評価のポイントと、政策リサーチのあらましについて学ぶ。第2に、リサーチ・クエスチョンと仮説の立て方、資料の探し方など、具体的なスキルについて述べる。第3に、学んだ手法を具体的に用いるため、グループ・ワークを通じて政策リサーチを実際に行う。</p> <p>(単独方式/全15回) (15 村上祐介/15回)</p>	集中 単独方式
		教員研修プログラム開発演習	<p>本講座は、受講生が実際に松山市教育センターの指導主事と連携協力して、教員研修プログラム作成段階から参画し、体験的に学んで資質・能力を育てることを目的としているわが国でも類のない講座である。計画段階では、自らのアイデアを提供し、実際の研修場面では指導主事のアシストをし、受講生の研修評価アンケートをまとめるなどの活動を体験する。そこで得られた情報を、大学教員と指導主事と協議しながら、自らの課題を多面的・多角的に考察し、教員研修プログラムの開発について提案する。</p> <p>(ティーム・ティーチング方式/全15回) (4 山崎哲司/15回, 7 平松義樹/15回, 8 城戸茂/15回)</p>	ティーム・ ティーチング 方式
		信頼を構築する学校危機管理	<p>学校における信頼構築を、学校危機管理という「防御」面と、保護者関係マネジメントという「攻勢」面から理解し、それぞれについての計画を策定する能力を習得する。前半では、計画作成とともに、計画を運用していく方法についても学習する。後半では、保護者との関係が、実は学校にとっての重大な状況悪化要因であることを押さえる。生きた事例を対象とすることを意図し、いくつかの事例については、現職の学校管理職を外部講師として招聘する。</p> <p>(ティーム・ティーチング方式/全15回) (2 露口健司/15回, 9 小田哲志/9回, 11 高橋葉子/8回)</p>	ティーム・ ティーチング 方式
		データを活用した学校経営	<p>近年、英米を中心に、データを活用した学校経営が注目されている。学校管理職には、学校に溢れるデータを活用し、人々を動かす能力が求められつつある。これは、日本でも将来的に、学校管理職に求められる能力であると考えられる。そこで、本科目では、データを活用した学校経営の基礎論を学ぶとともに、その具体的な方法について学習する。Excelを活用したデータ分析・表現法を習得し、勤務校にあるデータの分析を実際に行い、勤務校にフィードバックすることで、データを活用した学校経営の一環を体験する。</p> <p>(ティーム・ティーチング方式/全15回) (2 露口健司/15回, 9 小田哲志/15回, 11 高橋葉子/15回)</p>	ティーム・ ティーチング 方式

<p>カリキュラムマネジメントと校内研修</p>	<p>本授業のキーワードはサービスラーニング（問題解決学習的なカリキュラム開発）、アクションリサーチ（教師の実践研究）、カリキュラムマネジメント（研究指定校など）、レッスンスターディ（授業研究・校内研修）等であるが、もちろん受講生の興味関心・ニーズ、発達段階に十分に配慮しながら授業を進める。その際に、指導者側が概念説明と問題提起を行い、それについて各受講者の教職実践経験から分析を進めていく。</p> <p>最終的には、各自が持参する食材（教育実践経験）を料理する調理方法（ものの見方・考え方）を学び、将来のキャリアに転用する（大学院レベルの問題解決学習）能力の一端を身に着ける。</p> <p>（単独方式／全15回） （14 倉本哲男／15回）</p>	<p>集中 単独方式</p>
<p>人材育成演習</p>	<p>愛媛県では、多くの管理職が目標管理制度を経験していない。初任者等の若年層教員の数も全県的に少ないため、学校内での人材育成の機運も、都市部に比べて弱い。校長による教室訪問や授業観察・指導の頻度が少ないことも、調査によって明らかにされている。こうした状況を打開するために、本科目では、目標管理・人材育成の意義を理解するとともに、目標管理制度の効果的な運用方法、校内で人材育成を行うための効果的戦略について習得する。また、勤務校における人材育成計画をワークショップ形式で作成し、実践に有用な知識を生成する。</p> <p>（チーム・ティーチング方式／全15回） （2 露口健司／12回，4 山崎哲司／7回，8 城戸茂／14回）</p>	<p>チーム・ティーチング方式</p>
<p>学校改善課題研究1</p>	<p>本授業では、前期地域連携実習での実践支援経験を、隔週で報告・省察することによって、実践知を形成する。また、当該実習において発見した実践課題を共有し、改善策を指導チーム（地域連携実習の実習アドバイザー＝連携協力校教員、研究者教員、実務家教員の3名で構成）において検討する。学校改善課題研究3の課題研究プレゼンテーションに向けての課題探索の機会として位置づけられる。到達目標は以下の3点である。すなわち、①学校での支援実践を通して、課題を発見し、その解決案を構想することができる。②指導チームで検討した解決策を、学校の実情に応じて実行することができる。③課題研究プレゼンテーションのテーマを設定することができる。</p> <p>（チーム・ティーチング方式／全15回） （2 露口健司／15回，4 山崎哲司／15回，7 平松義樹／15回，8 城戸茂／15回，9 小田哲志／15回，11 高橋葉子／15回）</p>	<p>チーム・ティーチング方式</p>
<p>学校改善課題研究2</p>	<p>本授業では、後期地域連携実習での実践支援経験を、隔週で報告・省察することによって、実践知を形成する。また、当該実習において発見した実践課題を共有し、改善策を指導チーム（地域連携実習の実習アドバイザー＝連携協力校教員、研究者教員、実務家教員の3名で構成）において検討する。学校改善課題研究3の課題研究プレゼンテーションに向けての計画作成の機会として位置づけられる。到達目標は以下の3点である。すなわち、①学校での支援実践を通して、課題を発見し、その解決案を構想することができる。②指導チームで検討した解決策を、学校の実情に応じて実行することができる。③課題研究プレゼンテーションのテーマを設定することができる。</p> <p>（チーム・ティーチング方式／全15回） （2 露口健司／15回，4 山崎哲司／15回，7 平松義樹／15回，8 城戸茂／15回，9 小田哲志／15回，11 高橋葉子／15回）</p>	<p>チーム・ティーチング方式</p>
<p>学校改善課題研究3</p>	<p>本授業では、地域連携実習での実践支援経験を、隔週で報告・省察することによって、実践知を形成する。また、当該実習において発見した実践課題を共有し、改善策を指導チーム（地域連携実習の実習アドバイザー＝連携協力校教員、研究者教員、実務家教員の3名で構成）において検討する。指導チームとの協議は、大学及び勤務校において行われる。2年間の実践を実践研究報告書にまとめ、課題研究プレゼンテーションにおいて報告する。到達目標は以下の2点である。すなわち、①2年間の学習及び実践の成果を、「実践研究報告書」にまとめることができる。②課題研究プレゼンテーションにおいて豊かな表現力をもって報告することができる。</p> <p>（チーム・ティーチング方式／全30回） （2 露口健司／30回，4 山崎哲司／30回，7 平松義樹／30回，8 城戸茂／30回，9 小田哲志／30回，11 高橋葉子／30回）</p>	<p>集中 チーム・ティーチング方式</p>

教育実践開発コース	子ども理解の心理アプローチ	<p>本授業は、学校教育における「教師による子ども理解」のしくみと働きを理解し、実践的・省察的態度のもとで子ども理解に取り組む基礎を修得することを目指す。まず、子どもへの理解を歪めるステレオタイプ等の影響とそれに気づく省察や共感的理解の役割を学び、発達する子どもの心理や行動の内面を見立てる上で有効な理論・人間観にふれる。また学校のどのような場面でも活用される観察、面接、簡便な質問紙などの心理学的アセスメントの方法を実習した後、具体的な課題を抱える子どもたちの事例を理解するために、それらの方法をどのように用いるか、協働作業により探究する。</p> <p>(ティーム・ティーチング方式／全15回) (1 橋本巖／11回, 6 信原孝司／6回, 12 樫木暢子／15回)</p>	ティーム・ティーチング方式
	教材開発演習	<p>研究者教員と実務家教員が共同して授業を運営し、受講者が教育研究の視点をもって現代的課題に取り組んだ提案型の教材開発ができるようにする。具体的には、実際に小・中・高等学校で教育経験のある教員（研究者教員／実務家教員）から、現代的課題（PISA型学力育成、思考力・判断力・表現力育成、活用力育成、集団で発揮される学力の育成など）に注目した学習者の関心・意欲を喚起できる教材の提案を行う。それを参考に受講者がグループごとディスカッションをしてアイデアを交換し、基礎・基本に関わる内容の教材と、発展的内容に関わる教材を提案し、それらを評価・改善し共有していく。</p> <p>(ティーム・ティーチング方式／全15回) (7 平松義樹／9回, 11 高橋葉子／6回, 13 吉村直道／7回, ① 井上洋一／7回, ③ 立松大祐／7回)</p>	ティーム・ティーチング方式
	教育課題解決のための教育プログラム開発演習	<p>いじめをはじめとする様々な教育課題への対応を考え、その解決のための教育プログラム開発を演習形式で行う。とりあげる教育課題は、いじめ、思春期問題（性教育、薬物乱用防止、学校や社会への適応）、ネットモラル教育である。それぞれの課題の代表的な事例を検討し、その解決プログラムを、特別活動、道徳教育、総合的な学習の時間を中心として開発する。それぞれの開発プログラムの作成と検討を通して、教育課題解決のための実践的能力の育成を図りたい。</p> <p>(ティーム・ティーチング方式／全15回) (3 太田佳光／9回, 5 白松賢／8回, 9 小田哲志／15回)</p>	ティーム・ティーチング方式
	学級経営と生徒指導の事例研究	<p>いじめ・不登校、学級崩壊や校内暴力の低年齢化など、学級経営や生徒指導に関する問題が議論されている。これらの問題解決に向き合う上で、学級経営と生徒指導の質を高めることが求められている。そこで、様々な事例をもとに、ディスカッション、ロールプレイ、ワークショップを行い、実践的に、学級経営や生徒指導に資する資質能力の開発を行う。到達目標以下の3点である。すなわち、①学級経営及び生徒指導の理論に基づき、実践的に事例を考察することができる。②事例を通じたディスカッションを通して、同僚性を高めるコミュニケーションスキルを身につけることができる。③教育臨床学的知識・技能を用いて、学級経営・生徒指導上の課題を考察することができる。</p> <p>(ティーム・ティーチング方式／全15回) (3 太田佳光／10回, 5 白松賢／10回, 8 城戸茂／15回)</p>	ティーム・ティーチング方式
	特別な教育的ニーズへの対応	<p>特別支援教育の進展に伴い、通常の学級に在籍する特別な教育的ニーズを有する子どもたちへの対応が学校教育の課題となっている。この課題に対して本授業では、子どもの発達段階及び学齢期の発達課題について理解を深め、論文講読を通じて、様々な事例への対応方法を検討する。また、実習での経験を踏まえて、特別な教育的ニーズを有する子どもたちへの対応について、個別的教育支援計画を作成し、具体的な方策を検討する。到達目標は以下の通りである。すなわち、①認知、心理、運動機能、社会性等の発達段階について理解し、学齢期の発達課題を説明できる。②特別な教育的ニーズを有する事例について、学校全体での支援、家庭や地域との連携について具体的な方策を提示できる。</p> <p>(ティーム・ティーチング方式／全15回) (12 樫木暢子／15回, ② 荻田知則／15回)</p>	ティーム・ティーチング方式

<p>児童生徒・保護者の教育相談実践</p>	<p>家庭環境や地域環境の変化に伴い、児童生徒の問題に保護といかに協力・連携関係を紡いで協働していくかが、学校教育の課題となっている。この課題に対して本授業では、児童生徒の発達課題や問題行動への理解を深め、教育相談の具体的な方法を検討し、その実践力を習得する。到達目標は次の2点である。すなわち、①児童生徒の様々な問題行動を理解し、教育相談の実践方法を習得している。②児童生徒の協力者としての保護者と連携し、教育相談を実践的に進めることができる。 (チーム・ティーチング方式/全15回) (6 信原孝司/15回, 12 榎木暢子/15回)</p>	<p>チーム・ティーチング方式</p>
<p>授業改善課題研究1</p>	<p>前期地域連携実習での実践支援経験を、隔週で報告・省察することによって、実践知を形成する。また、当該実習において発見した実践課題を共有し、改善策を指導チーム（地域連携実習の実習アドバイザー＝連携協力校教員、研究者教員、実務家教員の3名で構成）において検討する。授業改善課題研究3の課題研究プレゼンテーションに向けての課題探索の機会として位置づけられる。 (チーム・ティーチング方式/全15回) (1 橋本巖/15回, 3 太田佳光/15回, 5 白松賢/15回, 12 榎木暢子/15回, 13 吉村直道/15回, ① 井上洋一/15回, ③ 立松大祐/15回)</p>	<p>チーム・ティーチング方式</p>
<p>授業改善課題研究2</p>	<p>後期地域連携実習での実践支援経験を、隔週で報告・省察することによって、実践知を形成する。また、当該実習において発見した実践課題を共有し、改善策を指導チーム（地域連携実習の実習アドバイザー＝連携協力校教員、研究者教員、実務家教員の3名で構成）において検討する。授業改善課題研究3の課題研究プレゼンテーションに向けての課題探索の機会として位置づけられる。 (チーム・ティーチング方式/全15回) (1 橋本巖/15回, 3 太田佳光/15回, 5 白松賢/15回, 12 榎木暢子/15回, 13 吉村直道/15回, ① 井上洋一/15回, ③ 立松大祐/15回)</p>	<p>チーム・ティーチング方式</p>
<p>授業改善課題研究3</p>	<p>地域連携実習での実践支援経験を、隔週で報告・省察することによって、実践知を形成する。また、当該実習において発見した実践課題を共有し、改善策を指導チーム（地域連携実習の実習アドバイザー＝連携協力校教員、研究者教員、実務家教員の3名で構成）において検討する。指導チームとの協議は、大学及び勤務校において行われる。2年間の実践を実践研究報告書にまとめ、課題研究プレゼンテーションにおいて報告する。 (チーム・ティーチング方式/全30回) (1 橋本巖/30回, 3 太田佳光/30回, 5 白松賢/30回, 12 榎木暢子/30回, 13 吉村直道/30回, ① 井上洋一/30回, ③ 立松大祐/30回)</p>	<p>チーム・ティーチング方式</p>



実 習 科 目	異校種実習	<p>勤務校あるいは勤務予定校とは異なる種別の学校の児童生徒、教職員、学校経営体制の違いについて、参与観察などを行い、異校種の理解を深める。異校種実習は、連携協力校が集中する松山市内の学校を対象として、学生の関心や移動距離を考案して決定する。</p> <p>異校種実習は1年次9月の2週間にわたり行う(学校での実習日数は10日間)。原則として、小学校及び高等学校教員は中学校、中学校教員は小学校で参与観察とインタビュー法等による資料の収集を行う。異校種実習の課題は、異校種における、児童生徒の実態の把握、教職員の活動(教科指導、学級経営、課外活動等)の理解、学校経営体制の理解である。これらを実地に学習する。</p> <p>(チーム・ティーチング方式) (全専任教員、13 吉村直道、① 井上洋一、② 荻田知則、③ 立松大祐)</p>	<p>集中</p> <p>チーム・ティーチング方式</p>
	小規模校実習	<p>1年次の9月に、小規模校における2週間の実習を通して、小規模校における学習指導・生徒指導等に関する指導のポイントを経験的に理解し、実践的指導力の向上を目指す。</p> <p>松山市内の連携協力校の中から、学生の関心に合致し、また、自宅から勤務できる範囲にある小規模校を選択する。連携協力校の設定においては、複式学級のある学校を優先し、複式学級の指導法についても実践的に学習する。</p> <p>(チーム・ティーチング方式) (全専任教員、13 吉村直道、① 井上洋一、② 荻田知則、③ 立松大祐)</p>	<p>集中</p> <p>チーム・ティーチング方式</p>
	研究指定校実習	<p>1年次後期に、学生が設定する研究課題について先駆的に実践している学校を訪問観察し、課題研究の充実と職能成長促進をめざす研究指定校実習を行う。</p> <p>10月から事前指導として、ガイダンスに加えて、訪問校の特定を行う。訪問校の特定においては、学生の研究関心・職能成長課題を踏まえて行う。本実習では、愛媛県内外で計5日間(40時間)の訪問観察を行う。複数の教員が担当するため、学生全員が同一校に訪問するのではなく、グループに分けて訪問することも可能である。</p> <p>事後指導としては、省察レポート作成の他、省察協議・報告会の場を設ける。</p> <p>(チーム・ティーチング方式) (全専任教員、13 吉村直道、① 井上洋一、② 荻田知則、③ 立松大祐)</p>	<p>チーム・ティーチング方式</p>
	地域連携実習1	<p>1年次に、課題研究の基盤となる実習を連携協力校において行う。現職教員は勤務校にて地域連携実習を行う。学部卒業者は、研究関心や自宅からの距離等を勘案して実習校を選択する。</p> <p>学生は、主として、水曜日の午前あるいは木曜日に設定されている「地域連携実習枠」を利用して、毎週12時間、年間で360時間の実習を行う。現職教員は学校での勤務を通して、研究課題の探求と職能成長課題の探求を試みる。学部卒業者は学級の児童生徒理解、教材研究、授業実践、授業補助、学校行事の指導等を行う。</p> <p>(チーム・ティーチング方式) (全専任教員、13 吉村直道、① 井上洋一、② 荻田知則、③ 立松大祐)</p>	<p>チーム・ティーチング方式</p>
	地域連携実習2	<p>2年次に、課題研究の基盤となる実習を連携協力校において行う。現職教員は勤務校にて地域連携実習を行う。学部卒業者は、研究関心や自宅からの距離等を勘案して実習校を選択する。</p> <p>学生は、主として、水曜日の午前あるいは木曜日に設定されている「地域連携実習枠」を利用して、毎週12時間、年間で360時間の実習を行う。現職教員は学校での勤務を通して、研究課題の探求と職能成長課題の探求を試みる。学部卒業者は学級の児童生徒理解、教材研究、授業実践、授業補助、学校行事の指導等を行う。</p> <p>(チーム・ティーチング方式) (全専任教員、13 吉村直道、① 井上洋一、② 荻田知則、③ 立松大祐)</p>	<p>チーム・ティーチング方式</p>

地域連携実習3	<p>2年次に、教育実践開発コースの学生を対象として、授業力の向上をめざした集中型の地域連携実習（2単位）を設定する。地域連携実習1・2の指導体制に加え、愛媛県内において授業のエキスパート級の教員数名を実地指導講師として、連携協力校に派遣する。教員養成課程における授業力向上の総仕上げの実習として位置づく。</p> <p>事前指導は、大学において地域連携実習3の目的、すすめ方等について事前の指導を行い、実習計画をたてる。第1週には、主として児童生徒理解、教材研究、授業構成の工夫、授業実践、授業支援、省察協議等を行う。また、保護者が関わる行事等への参加を通して、保護者対応の学習を行う。第2週には、授業のエキスパート級教員を外部講師として招聘した授業研究を複数回行う。事後指導は、大学において、地域連携実習3における学習内容について相互に検討し、報告書を作成する。  (チーム・ティーチング方式)  (全専任教員, 13 吉村直道, ① 井上洋一, ② 荻田知則, ③ 立松大祐)</p>	<p>集中  チーム・  ティーチング  方式</p>
---------	---	---